



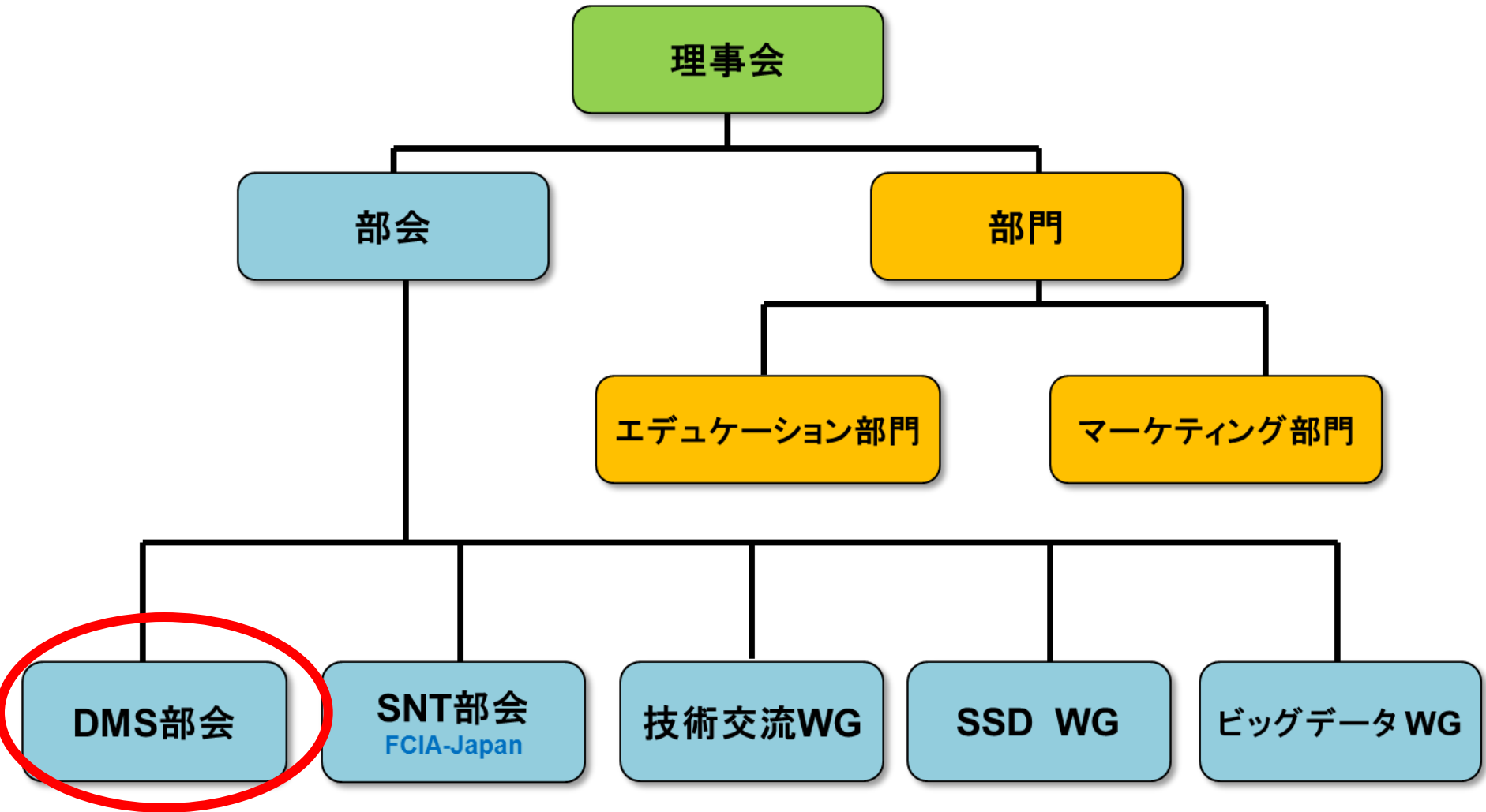
新春セミナー DMS部会について

データマネジメントソリューション部会長
伊藤 幸司

2017年1月26日

- **DMS部会について**
- **Tech Forum**
- **2016報告**

JDSF組織図

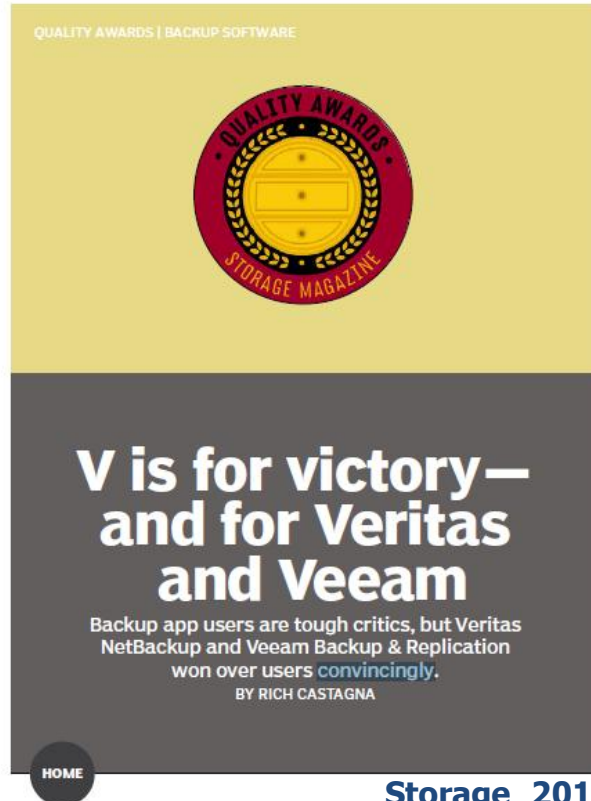


- 1997年のJDSF設立と同時期に発足した、前身のデータ・バックアップ・ソリューション部会(略称DBS部会)から活動範囲を拡げている部会です。
- データを管理する上で生起する様々な問題をストレージ技術の観点から取り上げ、新たなソリューションを調査、紹介することでストレージ業界に携わる技術者の知識向上に貢献することを目的とします。
- テーマに応じた分科会や他団体様との協業により、データマネジメントの手法、技術、製品を掘り下げ、情報を共有し提供します。
- TechForumの実施 データマネジメント観点での勉強会(セミナー)を通して知識の共有・深堀を実践します。



DMS部会 Tech Forum 2016

『最新バックアップ事情 (Veeam × Veritas) ～貴方はどっちの”V”？～』



JDSF DMS部会
2017年1月26日

1. 参加メンバー

○パネリスト

Veritas : 星野様、櫻田様

Veeam : 大越様、吉田様

○モデレーター

DMS部会 佐野(株式会社エクサ)

2. 当日の様子(2016年10月14日)



2. テーマディスカッション

①クラウドの興隆とバックアップの関係について

Veritas	Veeam
<ul style="list-style-type: none">・クラウドによって HWおよびSWの障害数が減った。・人も減らせたが、そのトレードオフとして企業の技術力(運用および要素技術の専門家)も低下した。・ただし、ヒューマンエラーは相変わらず発生する。・そのためのバックアップは必要だ。	<ul style="list-style-type: none">・クラウドが普及すると製品販売数が減るので、データ保護ベンダーはつらいところもあるが、逆にクラウドベンダーとの協業を強化している。・日本では、SIが主体となり最適化を図っている。ただし、お客様ごとによる個別最適となっているため、その個別対応は足かせとなりうる。・クラウドベンダーとの協業で、標準化(全体最適)を支援する仕組みを作っていきたい。

2. テーマディスカッション

②最近「これは面白い」と感じた案件

Veritas	Veeam
<ul style="list-style-type: none">・バックアップしたデータをいつでも使用できるインスタントリカバリの概念で、SLAを向上させる。クラウドでも安価なものを目論む。・お客様がDR製品導入時、様々な機能を検討するが、最終的には機能以上に「いざというとき、(技術者でない)ど素人でもデータがリストアできる製品をくれ」と言われた。	<ul style="list-style-type: none">・製品選定について、E/Uが独自に決定するケースはまれで、多くの場合SIが提案したものが選ばれる。(日本独特の現象)うえ、ベンダーはパートナー支援が必要。・仮想化が普及したために、データ保護技術者はサーバー、ストレージ、ネットワーク、バックアップの全てについて知らなければならなくなった。

2. テーマディスカッション

③ ローカライゼーションへの取り組み

Veritas	Veeam
<ul style="list-style-type: none">・苦勞しているテーマである。・ローカライゼーションには3つのレベルがある。<ul style="list-style-type: none">レベル1: 日本語OS環境で動くことレベル2: マニュアルの日本語化レベル3: GUIの日本語化・売れ筋の製品を優先的に。ある程度販売数のある製品が対象。・日本では、官公庁向け、ミットレンジ向けには日本語化は必須。	<ul style="list-style-type: none">・レベル1はクリアしている。・日本大手ベンダー(F,H,N)向けには日本語対応必須。・日本語にこだわるのはアジアの中でも日本だけ。以前は中国、韓国もこだわっていたが、今は全面的に英語のまま。

2. テーマディスカッション

④ Instant Recovery, Flat Backup, Backup Appliance についてどう思うか

Veritas

- ・Flat Backupはストレージベンダー独自の機能なので、ベンダーロックインを嫌って使わないお客様が多い。同時に、HWに依存するストレージコピーはグローバルで減ってきている。
- ・SDSでアプリケーション・アウェアのFlat Backupを作る動きを予想している。
- ・2009年～2010年にかけてリーマンショックによる不景気にもかかわらず、売上が伸びたのは、仮想化普及による影響が大きい。

Veeam

- ・Flat Backupの件数は減っている。
- ・Backup Applianceは様々な製品のプライアンス化の一つとして、当然売れていくだろう。当社がやるかどうかはわからない。

2. テーマディスカッション

⑤最後に

Veritas	Veeam
<ul style="list-style-type: none">・安定力を確保・パートナーありきのビジネスなので、支援を継続したい。	<ul style="list-style-type: none">・ミッドレンジ、SMB市場に注力。・お客様主体で、リセラー向け、手離れ良く。

DMS部会では、
パネルディスカッションの
テーマを募集しております

